

会長短信

会長 西山 靖郎

OB、OG 諸先輩におかれましては、いつもご支援、ご協力をいただき誠にありがとうございます。二年続きまして全国大会に出場せず、特に関東地方のOB、OGの皆さまには寂しい思いをさせていることと存じます。来年度には必ず全国大会に出場を果たしたいと思っておりますので、ご期待ください。

この度、山口部長先生におかれましては、大学の定年をむかえられ部長を辞されることとなりました。15年の長きにわたりお世話頂き誠にありがとうございました。就任早々には、航空部が絶滅の危機にありましたが、OBの間では禁じ手と思われていた“鳥人間”という切り口で学生を集めて頂き、ひいてはそれが今日までの継続に繋がっていることは、非常に感謝いたしております。

昨秋より、監督が遠方であるので関西在住のOBを中心に助けてくれるよう集団指導体制をとりました。より学生に寄り添える指導を目指しておりますが、“船頭多くして船山に上る”のことわざにありますように、旗印を明確に掲げ方向を明らかにしていかないと、利より害が生じることがありますので、その点を歴然としてもらいたいと思っております。

次の総会においてはその点も含め 次年度のスローガンを発表していただき説明をしていただける場を設けていきたいと思っております。

又、かねて懸案でありました付属高校の生徒に対する働きかけとして、国際高校の生徒に対し現役ラインパイロットとのトークセッションや体験搭乗の計画も進みつつある状況でありますので期

待しております。答えは数年先になるかもしれませんが徐々に進めていきたいと思えます。

末筆になりましたが、皆様のご健勝をお祈りいたします。本年も、ご支援をお忘れなきようよろしくお願い申し上げます。

部長短信 ー退任のご挨拶ー

山口 博司

光陰は矢のごとく流れ、やがてすべてが経験と思い出に代わります。十五年前、航空部の部長を仰せつかり、何か私自身の記憶の一端が、当時につながるような気がいたしています。

私の最初の部長短信では、「グライダーは、他に類を見ないスポーツです。機体構造は工学そのものですし、飛行は流体力学理論によるものです。私は、工学部の機械系学科で流体工学を担当して、これらグライダーに関する工学的な視点では、大変身近に感じます。…」というご挨拶で始まりました。そして、「…それがまた重要な事であると思います。このような意味でも、多くのグライダー経験をもつ翔友の皆様が、楽しみということについても語っていただければよいと思います。

すばらしいチャンスを与えられた航空部の皆さんと共に、何かと、私も勉強とまた経験を積んで行きたいと願っています。これからの、同志社大学航空部に対して、翔友皆様のご支援とご協力を切にお願い申し上げます。」で終わっています。まさに、初めての短信のとおりとなりました。

素晴らしい伝統に誇りを持って、より優れたものの創造と改革の意識と意志を持って頂きたいと願っています。今後とも、同志社大学航空部部員諸君の健闘と、翔友会皆様の変わらぬご支援とご協力を切にお願い申し上げます。私のご挨拶いたします。

2018.2.吉日 田辺キャンパスにて



部長短信 ー就任のご挨拶ー

宮本 博之

今年の桜は温暖な気候と晴天に恵まれて、開花が早く、長期間楽しむことができました。今、京田辺キャンパスではクラブやサークルのブースが並び、新入生の勧誘活動で賑わっています。その中でも入口付近に展示してある航空部のグライダーは一際目を引きまします。多くの新入生が入部してくれることを期待しています。

この度、私は 80 年という伝統のある同志社大学航空部の部長という大役を拝命いたしました。私自信は高所恐怖症・閉所恐怖症で、遊園地のジェットコースターやアームで連結した回転式の飛行機（名前は知りません）も乗れない怖がり屋なので、部員の皆さんの勇気を尊敬しております。しかも、女性部員の多いことは頼もしい限りです。グライダーという小さな飛行体で風に任せて大空を飛ぶことは私を含めた一般の人々の想像をはるかに超えた魅力と感動があるに違いありません。最近ではドローンが普及して空からの映像を見る機会が増えたように思いますが、おそらく比較にもならないくらい体感を得られていることでしょう。これは部員の方々の特権であり、卒業して社会に出れば、おそらく二度と経験できない貴重な体験だと思います。飛行訓練やグライダーの維持・整備など苦勞も多いと思いますが、この限られた時間を十分に楽しんでほしいと願います。私も部長としてできる限り皆さんのお手伝いができればと思います。

話は変わりますが、昨年、鹿児島に行く機会があつて、知覧という所に立ち寄りました。ここは第二次大戦中、特攻隊の発着基地となつた所で、現在は知覧特攻平和記念館があり、悲しい戦争の歴史を伝えています。ここには隊員の遺品や家族への別れの手紙など関係資料が展示されています。

また、特攻に使つた戦闘機も展示してありました。予想以上に構造が小さく、操縦機器類も非常に簡素で粗末なもので、これで何千キロも飛んだのかと驚きます。この場所から多くの十代や二十代の若者が片道燃料で南方の空に向けて飛び立ち、帰ることはありませんでした。数年前に特攻隊を主題にした「永遠の0」という映画が上映されたのが記憶に残っています。この映画でも桜のシーンが多く出てきました。桜ははかない生命のイメージがあるからでしょう。近年、世界的に不穏な情勢になっていく中で、今後も平和が続くことを祈念してやみません。

【宮本先生紹介】



生年月日 1965年6月4日
1989年 本学工学部機械工学科卒
1992年 本学大学院機械工学博士課程修了
1992-1997 住友金属工業株式会社 総合技術研究所勤務を経て
2000年 工学博士
現在 同志社大学工学部 助教授
専門分野 金属材料の組織制御、機械的性質

監督短信

監督 森川 泰

OBOG の皆様にはいつも多大なご支援を頂きありがとうございます。2017 年度も東海関西地区で事故などもありましたが、幸いにも人身事故とはならずすみ、今は通常運航に戻っています。これをお読み頂く頃には年度も変わり、新しい部長先生、新しい部員を迎えて、現役部員達は気持ちも新たに活動をしていると思います。長いこと部長を勤めて頂いた山口先生、ありがとうございます。そしてこれからお世話になる宮本先生、よろしくお願い致します。

さて、長らく監督をさせて頂いていますが、私の力不足もあり、部活動の充実度に浮き沈みが激しく、中々継続的にクラブ活動を向上させて行くことが出来ておりません。近年、色々な方からも活動内容についてご指摘を受けており、特に危機感を覚えておりました。本来ならば心機一転、監督を始めとして体制を一新して改善をするのが良いとは思いますが、優秀な人材ほど仕事などが忙しく、中々代わって頂ける人がいません。また、従来は教育証明を有する教官が合宿は勿論のこと、普段の活動も全て指導するのが我々航空部の伝統的スタイルでしたが、教官の人材も限られ、航空部を取り巻く環境、大学の在り方も変わって来ており、指導者が果たすべき事柄も増えています。更に私が関東在住の為、中々普段の活動に目が行き届きません。

そこで、昨年度の秋頃に航空部の学生を指導する体制について新しい試みをする事に致しました。航空部の活動を強固で継続的なものにする為には、土台となる普段の活動を充実させることが必須であり、きめ細かな指導が今の学生には必要です。そこで、関西在住のOBで会社や学校で部下や生徒の指導経験が豊富な方々にご協力頂き、普

段の活動を直接ご指導頂くことにしました。具体的には、東海関西学連にも関わっている太田君、整備士で教師でもられる坂口さん、大学職員で航空部の副部長をしてもらっている瀬川君、そして東海在住ではありますが、整備士の坂田さんに指導陣に加わって頂いて普段の活動を中心に指導して頂きます。現在、コーチである玉井君に加え、太田君と坂口さんにもコーチとして活動して頂きます。既に動き出していますが、2018 年度からが本格的にこの指導陣で指導致します。その一方で、合宿はやはり教官が主導しないと成り立ちません。今後、教官達には合宿や操縦教育、大会へ向けての指導、飛行安全の確保に注力して頂きます。教官が本来の活動の指導の中心であることには変わりはありません。

この試みはまだ始めたばかりですが、少しばかりの手応えも感じ始めております。今後も指導方法に修正を加えつつ部活動の強固な土台を築き、レベルアップを図って行きたいと考えております。今後も益々の OBOG の皆様にご支援をお願いすることが増えると思いますが、よろしくお願い致します。